

令和7年度 第3回越前町地域公共交通活性化協議会

議事録

開催日時：令和7年12月19日(金)

午後2時00分から午後4時00分まで

開催場所：越前町生涯学習センター2階会議室1

●出席者

- ・委員：14名（欠席者7名）
- ・事務局：3名
- オブザーバー：2名（計画策定受託事業者）

●議事概要

協議事項（1）生活交通確保維持改善計画一次評価について

	資料に基づき、事務局説明
委員	<p>3ページの計画目標で、公共交通利用者数の目標値が230千人、今年度見込は207千人というところで、バスの減便廃止の影響はどのくらいあるのか。それに関連して、公共交通に対する越前町の負担金は、目標値の90,000千円に対し、今年度見込が84,424千円というところで、コミュニティバスの見直しや路線バスの減便廃止、物価高騰で、どの程度影響があってこの数値なのか、分かるのであれば教えていただきたい。</p> <p>最後に、公共交通の満足度は、路線バスを含む公共交通の状況が良くない中で、満足度が上がっていくとはとても思えない。どうしたら満足度が上がっていくのかといった目標など、そもそも考え方を変えないといけないのではないか。</p>
事務局	<p>負担金に関しては、計画当初の路線バス負担金は、京福バス8路線・福鉄バス5路線を合わせて約51,480千円、令和7年度見込では、京福バス4路線・福鉄バス3路線を合わせて約35,000千円。コミュニティバスは、計画当初は9路線の町負担が約52,350千円、今年度はコミュニティバス4路線とデマンドタクシー2区域で町負担が約43,000千円見込。いずれも便数が減っているため町負担金は減少したが、1路線の運行にかかる経費としては単価が上がってきている状況。</p>
委員	<p>バスの本数やその時の状況で負担金は上がったり下がったりもするので、一概に金額だけで目標値を決めるより、維持していく単価のようなものを示さないちょっと難しい部分もあるのではないかと。</p>
議長	<p>この点について、国として何か他の事例は把握されているか。目標値に決まった単価をいれるとか。</p>

福井運輸支局	表に出てこない部分なので、目標値を単価で示しているというのはいはあまり聞いたことはない。
議長	国が決められているものではないということで、町が独自に負担金の目標値を定めているだけなので、今後どうするかはまた議論させていただきたい。 また、満足度について、第一次計画でこの目標値を定められた背景は？
事務局	当初目標を掲げた時点では、新たな公共交通体系によりデマンドを導入することで利便性高まり、利用が増えるというような想定のもとで設定した。
委員	次年度に向けた課題や取り組みのところで、「利用性向上を目指した新たな交通体系を検討する」「今後新たな交通体系の構築を含め、運行の効率化を検討」と書かれているが、この後の第二次公共交通計画の協議の時に内容をお聞きしたい。
採 決	承認

協議事項（２）京福バス「西田中宿堂線（天王～福井駅）」の廃止について

	資料に基づき、事務局より説明
京福バス(株)	<p>【補足説明】</p> <p>この件については、昨年の同時期にも廃止の提案をさせていただき、その後、沿線の福井市も含めいろいろと協議した結果、運行を1年間延長させていただいたというところ。</p> <p>この間の利用状況は、以前から資料に近いような状況であり、減便後も増えているという状況ではなく、バスでの輸送という意味では廃止という決断をさせていただいた。</p> <p>今後、プラント3から福井駅間の輸送については、引き続きバスの運行は考えているが、天王からプラント3の区間については、今年度3月末をもって廃止とさせていただきたい。なお、ほやほや号の運行は継続されるため、日中の移動は引き続きこちらをご利用いただきたい。</p>
議長	<p>これは昨年からの案件であり、1年間運行を延長していただいたが、令和8年3月31日をもって廃止するという結果となった。これは、事業者の努力不足という話ではなく、やはり全国的に公共交通が直面している課題であり、今後、町としてこういった方向性で進むかということは、第二次計画の中に取り込んでいけたらと考えている。</p> <p>資料には「代替手段なし」と書いているが、予約制のほやほや号、あるいは天王から西田中バスターミナル間については現在運行している既存の路線への利用転換を町として結論づけたということになるので、このあたりをご理解ご了承ください。</p>
委員	<p>町の代替手段の考え方は、鯖浦線から神明あるいは北鯖江を經由して福井市内に行くという既存のものがあるから、代替としてのその手段を勧めていきたいということ。一方で、プラント3まで送迎し、そこから清水グリーンラインに乗っている人が増えているという実態が見えるということも書かれている。ということは、鯖浦線から神明を經由して福井市に出るというのが現実的に代替路線であるかどうかとを考えると、物理的には代替路線にはな</p>

	れないのでは。それを利用転換でお願いしていくよりは、そのあたりははっきりと無理なものは無理ということになり、ほやほや号の運行時間を延ばすといったことの検討を進める方が現実的であり、現実的にはないようなものを進めていくという考え方はもう一度改めて、町民の皆さんに周知していった方がいいのではないかと。
議長	ほやほや号を含めた代替手段の検討をされた話も聞いているが、なぜ駄目になったかという説明がなかったので補足説明を。
事務局	町としても、ほやほや号でこの朝の時間帯をカバーできるような便を運行してもらえないか、運行事業者に相談をさせていただいている。 朝1便の運行として見積をいただいたが、経費として高額となり、町としても運行は難しいところではあるという判断となった。高額の理由は、運行体系がこのほやほや号の延長線ではなく、別途朝1便だけ運行するというような形での対応ということになったため。 この費用について、今後さらに検討していきたいところでは、このほやほや号の体系に沿った形で、例えばもう少し時間を早めた運行ができないかということは、継続して相談をさせていただきたいと考えている。
京福バス(株)	ほやほや号の運行を行う福井交通(株)は通常のタクシー事業者になるため、タクシーの需要がある朝の時間帯はタクシー事業に振り向けるというイメージになる。同じように、町の方で町内タクシー事業者にも同じような相談をされたとお聞きしているが、そこでもなかなか難しいというご意見をいただいたと。いずれにしても需要がある朝の時間帯は、人を1人配置しないといけないため、それ相応の費用をいただかないとなかなか捻出できないという実情はある。
県	利用者や沿線の方々、町民の方への周知の予定や、今後のスケジュールがあればお伺いしたい。直接説明をされる場があると、代替手段の話や、送迎の話など、そのあたりの意見や移動需要も併せて聞くことができるのでは。地域を跨ぐ運行の検討は非常に難しいが、県としてもニーズを聞けるとありがたい。
事務局	広報というところでは、町の広報誌への掲載や、説明会のようなところでは、朝日地区の利用者が対象になると思うが、開催について検討を考えている。
議長	この件に関しては、誰の移動を最優先するのか、あるいはどの移動を町として守りたいのか、あるいは公共交通だけで本当に担っていけるのか、他の手段と組み合わせることができないか、そのような点も含めて第二次計画でアクションを移していくということを進めていきたい。
採 決	承認

協議事項（3）第二次越前町地域公共交通計画（案）について

	資料に基づき、事務局より説明。 計画に対するパブリックコメントは、令和7年12月26日から令和8年1月15日までの3週間で実施予定。
事務局	補足として、協議事項（1）でご質問のあった、ここで示している新たな交

	<p>通体系については、今後予定している「デマンドタクシーの区域を統合する」という部分を全面的に出させていただいているところ。</p> <p>また、公共交通利用者の満足度については、本日配布の資料 31 ページ、総合振興計画における目標指標 KPI に挙げているのが、全町民を対象にした満足度となっている。49 ページ、公共交通計画の評価指標 (4) 公共交通利用者の満足度というところでは、こちらは、実際に公共交通を利用される方の満足度となっている。令和元年度の満足度が 56% となっており、今回目標値の 50% は、令和 6 年度の現況値 20% から、この令和元年時の満足度を持っていったらという思いで設定をさせていただいているところ。</p>
議長	<p>これを満足度の指標にしていいかどうかという議論になるが、満足度が公共交通利用者数の伸びや経験者の割合にどう影響するのかどうか、この辺りを計画策定受託事業者様より教えていただきたい。</p>
計画策定受託事業者	<p>満足度が指標として妥当なのかというところでは、満足度が高いとリピーターに繋がり、利用する人でも利用頻度が上がるとか、あるいはもう 1 回使ってみようといった、いわゆる質的なものと将来的なものに繋がってくるものと認識している。</p> <p>一方で、満足度が多少低くてもそれに頼らないと移動できない人は利用せざるを得ないが、そういう状況下では満足度の多寡にかかわらず、利用が固定されるという形になる。やはり今後、デマンド交通等も含めて新たな需要も開拓していかなければならないという観点から、そういったことが実施できているかというモニタリングも踏まえて、満足度ということで提案させていただいている。</p> <p>目標設定の KPI に対して法的に決められているものとしては、公共交通利用者数と満足度は必須指標ではない。</p>
委員	<p>公共交通は今後も状況が良くなるのが厳しい中で、公共交通に対する満足度は下がる一方では。越前町のデマンド交通に対してとか、利用者の目標設定として KPI 載せるのはいいと思うが、満足度は一般論で一般町民に尋ねても意味がない。満足度の設定が必要であるなら、これまでと同じではなく、ジャンルを分けて進めていかないと KPI の意味がないのでは。</p>
議長	<p>越前町が運行するデマンド交通やコミュニティバスに対して、その内訳を細かく入れるかどうかというご指摘かと思う。全部すべてを網羅しての公共交通の満足度でいいのか、もっと細かく満足度を見ていくほうがいいのか、この点に関して特に異論なければ、事務局と協議して修正する。</p>
委員	<p>満足度に至る部分のところで、基本目標として「地域全体で必要な公共交通を守り育てる意識の醸成」があるが、具体的事業でいうと「住民や地元組織等による公共交通利用促進の実施」と「利用促進の PR」になるが、この二つで評価し切れるのか。個人的には「作り守って育てる」と思っているが、「守り育てる」としても、実際にやる活動を含めた評価軸というのも考えていかないと、満足度にも繋がっていかないのではないかと感じた。</p>
議長	<p>利用促進の回数や内容が、満足度や利用者数に少なくとも影響はしてくると思う。これまでの実施回数等に対し、5 年後にはどれだけ実施したかという</p>

	目標値を定めてもいいのでは。
計画策定受託事業者	ご指摘いただいた実施活動自体を目標に定めるという点に関して、事務局と協議し、位置付けを検討する。
議長	町がどう考えるかによるが、高齢化が進むと地域は衰退していくと言われる。なぜかというところも考えないといけないし、町を持続的にやっていこうとすると、子育て世代をいかに転入させてくるかということも考えないといけない。そういった中で、公共交通利用経験者の現況値が10%、目標値を13%にしているが、この13%をどのように設定されているのかを伺いたい。
計画策定受託事業者	13%というのは前回策定時の水準まで戻す、要はコロナ禍前の水準まで戻すという考えで設定したが、皆様のご意見も含めてもう少し解像度を高めるか、もしくは説明を追記するという形で計画を練ったほうがいいのかと思う。あとは意気込みをどこまで入れるかということ。
議長	このことで、国や県から何かアドバイスがあれば。
福井運輸支局	現実的に無理な目標値を掲げるのはどうかと思うが、基本ちょっと高めの方が目標値的にはいいのかなと思う。あくまで計画なので、実行していく中で変更もできるし、今後人口の増減もかなり多くなってくると思うので、その時にまた考えていかざるを得ないのかなと。
県	町の計画でもふれているとおり、県では2年前に嶺北地域公共交通計画を策定し、昨年度は嶺南地域の計画を改定したところ。利用者数のところでは、同じように令和元年のコロナ前の水準に戻すというような目標を立てている。現実としてまだそこに戻っていないのでまずはそこを目指す。 人口減少もあるが、そこは利用促進や、県の計画では観光客向けに二次交通も一つ項目として入れており、そういった方々を取り込んで利用者数を確保していくという目標にしている。 また、モビリティマネジメントの取り組みとして、利用促進に関する指標は、利用促進イベントや取り組みの件数を成果指標とし、各市町と県の取り組みを合わせて何件というようにしている。町の計画をご検討いただければ、取り組みを維持・拡大していくということを入れていただけると、一緒に取り組んでいきやすいのではと思う。
委員	高齢化が進むので利用する人が増えざるを得ないだろうとあったが、例えば高齢者を前期後期に分けたときには、おそらく状況が大分違うだろうと思う。前期高齢者の方は働いている人も多だろうし、そうした人は自分で車を運転する。 高齢者のことを議論するのであれば、例えば福祉部局や、介護タクシーの状況などもよく見ながら、その辺をつぶさに見ていく必要があると思う。具体的な施策を考える上でもそこが一つ重要なポイントになるのではないかと。
議長	高齢化率が36%ということだが、健康寿命を延ばすという考え方でいくと、前期高齢者であろうが後期高齢者であろうがしっかり外に出てもらおう。そのためには、公共交通をしっかりと整えてそれを利用してもらおうことは必要。ただ、地域柄もあるため、その地域の特性をしっかりと入れた上で目標値は定

	めないといけない。
委員	利用経験者 13%目標は、高齢者が増えればもう少し上がると思うが、その時に町でしっかりした二次交通があるかどうかが一番重要なこと。これから増えていく足のない人たちに、どういうふうに足を作っていくか、ということを考えていただきたい。
委員	現在、越前地区では、地域住民の立ち上がりにより、交通弱者に対する通院の送迎を無償運送で行うことを検討している。すべてを行政に依存するのではなく、地域で守り地域で育てていく、そういう方向に今地域の人達と話し合っているところ。
議長	今回いただいた貴重なご意見や修正は、いったん議長預かりにさせていただき、事務局と協議したうえで修正を加えパブリックコメントを実施させていただく。その結果は次の協議会で報告し、採決を取らせていただく。

報告事項（1）デマンドタクシー乗降地点の名称変更について

	資料に基づき、事務局説明
	質問等なし